

事務事業名		福祉教育推進補助事業		会計	一般会計	実施区分			
H28担当課等名		福祉課		事業種別	政策	開始	S55	終了	
H28係等名		地域福祉係		H27係等名		地域福祉係			
基本計画上の位置づけ		政策	3	健やかに安心して暮らせるまちづくり					
		施策	33	共に支えあう地域福祉の推進					
目的	対象(誰・何を)	①保育園・幼稚園、小・中学校、高校 ②児童及び生徒補助金支出先:飯田市社会福祉協議会			指標名及び単位		27年度数値		
	意図(どういう状態にするか)	福祉体験やボランティア体験を通じて福祉課題を共有化し、人権を尊重する心を育むと共に、お互いに助け合う共生の風土づくりを高める			対象指標	市内の小・中学校、高校の数		33	
	向上させたい上位施策の成果指標	近隣で支えあいができている市民の割合(%)				市内学校の児童及び生徒数(人)		12437	
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)
	成果指標	市内の小中学校、高校のうち、福祉活動実践校及び出前福祉講座実施校の割合(%)			60	61	60	60	
	成果指標	福祉活動及び出前福祉講座実施校で行った福祉活動の延べ参加児童・生徒の数/市内学校の児童・生徒の数(%)			60	31	60	60	
定性目標									
事業概要	<p>児童生徒が福祉体験やボランティア体験を通じて、社会福祉の理解と関心を高め、日常生活の中に相互扶助・社会連帯の思想を浸透させると共に、ボランティア活動の振興や福祉の仕事への理解促進を図る。</p> <p>そのために、多様な学習機会、人材、情報、機材などを提供し、活動を支援する。</p> <p>福祉施設との協働により、夏休みを利用したボランティア活動体験の場を与え、福祉問題を考える機会を与えると共に、将来の福祉の担い手としての意識啓発と職業選択のきっかけづくりとする。</p> <p>年間事業計画策定の段階で、学校教育課、学校担当者や福祉施設、ボランティアの積極的な参画が得られるよう工夫。</p> <p>ボランティアセンターを運営する社協への補助事業</p>								
事業内容				名称		活動指標			
27年度事業内容	1 福祉教育活動事業 各学校の生徒会やサークルが主体的に取り組む福祉活動(高齢者との交流、ボランティア活動等)に対し助成			1 福祉教育活動事業の学校数		1 延べ10校			
	2 出前福祉講座 学校でのクラブ活動、授業等で行う福祉体験学習に専門講師の派遣			2(1)講座実施校数 (2)講座開催数 (3)講師派遣人数		2(1)13校 (2)47回 (3)112人			
	3 福祉施設協働事業 サマーチャレンジボランティア事業、夏休みボランティア体験の実施			3 参加者数		3 延べ564人			
事業コスト		26年度決算額	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	特定財源内訳、補足			
事業費計(千円)①		599	549	549	549				
国庫支出金									
県支出金									
起債									
その他									
一般財源		599	549	549	549				
人件費計(千円)②		358		358					
正規職員所要時間		100		100					
臨時職員所要時間									
総事業費①+②		957	549	907	549				
事業内容・目標達成状況の振り返り	出前福祉講座は若干減少しているが、サマーチャレンジ・福祉教育活動校の実施については増加傾向にあり、義務教育・高等教育の段階から福祉についての体験学習ができています。								
改革改善の考え方	①問題点	実践校から活動支援に変更したので、もっと学校の理解により、活動を広める。							
	②改革提案	福祉活動実践校として指定するのではなく、学校側で福祉教育を行う際に講師の派遣や資材の提供等をスムーズに行える体制に変更する。							